



東京家政大学
TOKYO KASEI UNIVERSITY

今こそ、ライティング！

11/17/2018

太田 洋

ootahiro@gmail.com

Facebook 太田 洋(Hiroshi Ota)

(自己紹介をお願いします)

ライティングに関しての3つのポイント

1. ライティングには()が必要！
 - ー慣れとインプット
 - 「発信する英語」
2. ライティングには()が必要！
 - ー評価(生徒の伸び、実態把握)
 - 「診断問題」
3. ライティングには()が必要！
 - ーメカニズムなどの考え方＋実践例
 - 「研修会」

ライティングに関しての3つのポイント

1. ライティングには(慣れとインプット)が必要！
2. ライティングには(評価(生徒の伸び、実態把握)が必要！
3. ライティングには(メカニズムなどの考え方＋実践例)が必要！

ある公立中の先生の言葉

..writingも話した後だと、スムーズにか
けていた。(国語の作文すらも書けない
生徒が「肉か魚どちらが好きか。」とい
う話題について、理由もつけて複数文
を書くことができて感激したそうです。)

ある公立中の先生の言葉

- writingのワークシートは、4～5行程度の枠を4回分1面にすることで、生徒たちにとっては書きやすいのと、自分が書いてきたことを振り返られるのと成長がみられるのがいいみたい。だんだん書けるようになってきた！という声が生徒たちから聞こえた。(3年生)

なぜ、書けるようになった？

ライティングのプロセスは？

プランニング

→文章化

→リビジョン

といつもなるとは限らず、

「書きながら、プランニングを思い出す、修正することもある」(循環的)

ライティングのプロセスは？

- 初学者はプランニングに時間がかかる傾向

プランニングを助ける方法は？

— マッピング

— 手持ちのネタ

— 教科書

ライティングのプロセスは？

- 文章化を助ける方法は？

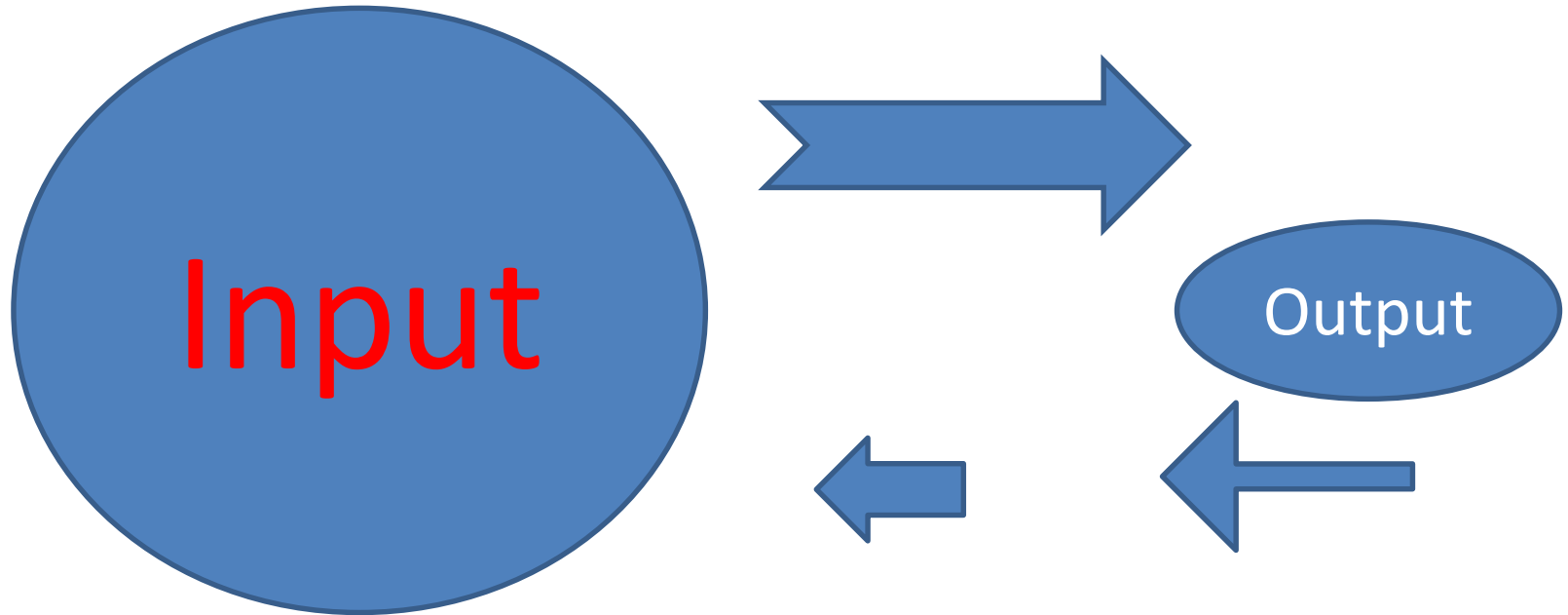
- インプット

- 「発信する英語」「書く力診断調査」

- 慣れ（気軽に少しずつ）

- 教科書

言葉の学びは、、



ライティングの3つのポイント

- 「相手」「目的」「テキストタイプ」

「滋賀のいいところを紹介する」



「滋賀に何度も来ている太田先生に、まだ行っていないこと、食べていないものなどを紹介する、」

「発信する英語」「書く力診断調査」

ある先生から

- なるべく書かせている、でも評価しないで返却している。他の先生方はどうしているか？

→苦しんでいる。添削をしているが、膨大ですごく大変。そこまででやれば評価はいい

→error correctionはあまり意味がない。コメントに書くようにしているが、不安でしかたない。

→チェックする事項を絞って、「これどこが違う？」とclass全体で気づかせる

ある先生からPart 2

- テストでの評価はどうするか？

一例. ポイントを示す、たとえば、「きちっと進行形が使えているか」を見る、後はゆるく

—1文で正確さを見たい時と、内容を見たい時と採点が違う。後者は加点方式にする

Written feedback

- 白畑知彦(2015)『英語指導における効果的な誤り訂正 第二言語習得研究の見地から』大修館書店
- 望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵(2015)『英語4技能評価の理論と実践』大修館書店
- 柴田美紀・横田秀樹(2014)『英語教育の素朴な疑問』くろしお出版

Written Feedback

- 田中(2015)「ライティング研究とフィードバック」大関浩美(2015)編著『フィードバック研究への招待』くろしお出版

Written feedback

- どう添削しますか？

Q.生徒の誤りをすべて添削をするのは効果的？

A. 効果がない

(望月他2015, 白畑 2015)

Q.どれが効果がある？

- 「スタンプ」「下線」「添削」

(Hatori et al.1990, Kanatani et al.1993)

この研究結果から、添削をしなくても、ただ下線を引くだけでもライティングの改善に効果があること、誤りを減らすのにスタンプを押すだけでも下線と同じ効果があることがわかり、興味深い結果と言える。(望月他 2015)

効果がない？どうして？

- 一度に多くの誤りを直される
 - 修正への焦点が定められなくなる
 - 1回で1つの文法項目に焦点を絞る

白畑(2015)

田中(2015)

「ライティング教育は作文の添削だと考えられているのが現状である。その添削の際、文法のエラー訂正に躍起になる必要はないということをSLA研究は教えてくれた。エラーすべてを修正しても徒労に終わる可能性が高い。」

田中(2015)

- 「それよりも、訂正する言語項目を決めて、繰り返し訂正し、確実に定着させることを目指した方がいい」

どんなエラー？

- 直接的フィードバック
 - ・「規則的で説明しやすい言語項目から訂正していく」(例. 過去形の規則動詞)
- 間接的フィードバック
 - ・「確実に学習者が自己修正できると思われるものと、クラス全体で取り上げてフィードバックをしたらよいと考えられるもの(多くの生徒が間違えたものなど)を対処する」

どう書かせるかー正確さ or 流暢さ？

望月他2015

- ・1, 2文レベルー正確さ
- ・4～6文レベルー流暢さ
- ・談話レベルのエッセイー流暢さ→文法項目を絞って正確さにも注意を払う

(例. 1回目は・・・、2回目は・・・、その他の項目の誤りは減点しない)

ライティングの評価(例)

- accuracy
 - Task completion
 - Fluency
 - Discourse(flow)
 - Range
- 「書く力診断調査」

根岸(2017:74)

- 現在の日本の中学校は、
「明らかに正確さを優先」
- ・エッセイ型のテスト結果
「あるレベルに至るまでは、書ける量が確実に増えていく」
→「初期段階で優先すべきは、
正確さより量なのではないか

ライティングに関しての3つのポイント

ライティングには

1. 慣れとインプット
2. 評価（生徒の伸び、実態把握）
3. メカニズム＋実践例

が必要！



東京家政大学
TOKYO KASEI UNIVERSITY

今こそ、ライティング！

11/17/2018

太田 洋

ootahiro@gmail.com

Facebook 太田 洋(Hiroshi Ota)

(自己紹介をお願いします)